



①3街区戸建住宅 ②集会所「TETTE(テッテ)」 ③北九州総合病院

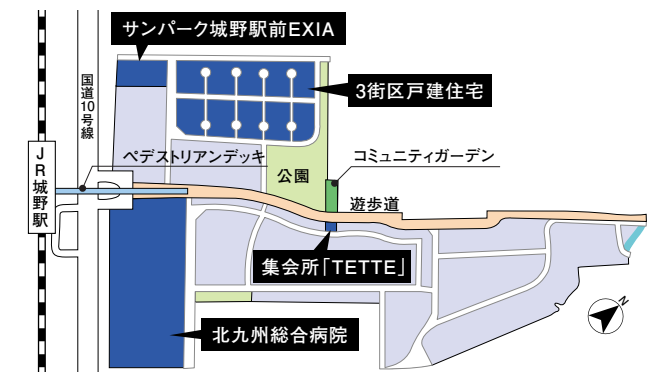
まちびらきを迎えた ゼロ・カーボンをめざすまち

政府は日本型スマートグリッド構想を成長戦略の一つと位置づけ、北九州市・横浜市・豊田市・京都府けいはんな学研都市を「環境モデル都市」として認定。「次世代エネルギー・社会システム実証実験」を実施した。北九州市でも2009年に「北九州市環境モデル都市行動計画」を施行し、

短期リーディングプロジェクトの一つとして「城野ゼロ・カーボン先進街区」が位置づけられた。これは、低炭素社会の早期実現に向けて、家庭部門のCO₂排出量削減が求められる中、街区単位でCO₂排出量を大幅に削減した先進モデルを具体的に創出するもの。陸上自衛隊城野分屯地跡地およびUR城野団地を中心とした城野地区(約19ha)において、さまざまな低炭素

技術や施策を取り入れてゼロ・カーボン街区を整備する。このモデルが市域に普及し、全国に発信することを目的としている。2011年には「城野地区まちづくり基本計画」が策定された。ここで掲げられたコンセプトは「人がつながり、多世代が『暮らし続けられる』『ゼロ・カーボン』と『子育て支援・高齢者対応』のまちづくり」。暮らしの中で発生するCO₂排出量の大幅削減と

多様な世代が暮らしやすく、将来にわたって住み継げる持続可能なまちづくりが追求され、多彩な低炭素技術やシステムを街全体に取り入れ、地域や地区単位でCO₂削減に取り組むことにより、ゼロ・カーボンをめざしている。そして、街の愛称が「ボン・ジョーノ」に決定し、2016年4月にはまちびらきを迎えた。これに伴い、住宅3街区の戸建て96区画が先行して分譲された。



「城野地区まちづくり基本計画」の4つの取り組み

ゼロカーボンをめざす「城野地区まちづくり基本計画」では4つの取り組みが示された。

1. 省エネ・創エネを備えたエコ住宅
 - 全戸に太陽光発電を標準装備
 - 全戸にHEMSを標準装備
 - 長期優良住宅・低炭素住宅の整備
2. 地域内のエネルギー最適化
 - CEMSによる地域エネルギーマネジメントの実現
 - 節電行動を促すダイナミックプライシング等の導入
 - ICTを活用した生活利便サービス
3. 公共交通の利用促進
 - 駅前広場・駐輪場の整備
 - 南北遊歩道の整備（歩行者自転車専用道路）
 - 街区と駅をつなぐ連絡通路の整備
4. 持続可能なタウンマネジメント
 - まちなみや地域の魅力・価値を維持・向上させるタウンマネジメントの仕組みを導入（まちなみ、緑、タウンセキュリティ、高齢者・子育て支援等）

この取り組み内容に沿って街区も計画され、JR城野駅に近い南側には北九州総合病院と医薬モール施設を配置。駅から続くペDESTリアンデッキの延長線上には南北遊歩道が設けられている。今後、遊歩道に沿った店舗なども計画されており、街のイメージの共有化を図り、事業をPRするため、計画初期段階には「環境計画支援VR」による映像が制作されている。



計画当初に制作された「環境計画支援VR」によるCG



駅から続くペDESTリアンデッキは2階部で北九州総合病院と医薬モール施設と接続する



ペDESTリアンデッキは北に延びる南北遊歩道につながる



南北遊歩道のソーラー街路灯



街区にはコモンとよばれる円形のポケットパークが設けられている



南北遊歩道の道路灯

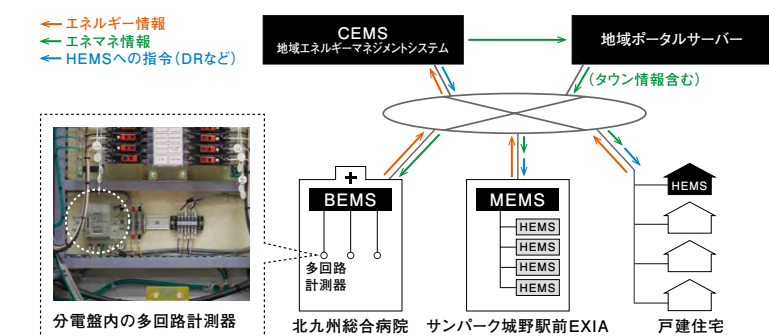


北九州総合病院前の道路灯とローボール灯

地区内のエネルギー最適化を図る

城野地区のすべての戸建住宅・集合住宅にはHEMS、北九州病院や医薬施設、商業施設などにはBEMSを導入。地区全体のエネルギー使用情報や発電情報をCEMSに集約して分析されている。これらのデータは、スマートグリッドで先行している東田地区のシステムと統合され、活用される計画。今後は、デマンドレスポンスやICTを活用した生活利便サービスも検討されている。

CEMS概念図



趣味や関心でつながる仲間と活動をシェアする壁をなくした開放的な空間。写真はキッチンラボ

コミュニティの中核施設 城野くらしの製作所 TETTE (テッテ)

ボン・ジョーノでは、タウンマネジメント組織が中心になり、住まい手自身が楽しみながら街の維持管理・運営に参加する、共同編集型のまちづくりが計画された。まちのマネジメントを行うコミュニティ「城野ひとまちネット」を中心に、まちを育む仕組みとして「タウンセキュリティ」「グリーンマネジメント」「エネルギーマネジメント」に取り組むことで参加型のまちづくりを進めている。

その中核となる施設が街区を縦断する南北遊歩道に沿って造られた「城野くらしの製作所 TETTE」。DIYやガーデニング、調理などの設備・道具を備えたコミュニティの中心となる施設。“くらしのレシピに会える、みんなのたまり場”をコンセプトに、キッチンスペースや多くのDIY工具を収納した「くらしの道具箱」を設置し、地域住民による各種イベントやコミュニケーションに利用できるように計画されている。



南北遊歩道が望める交流スペース



EV・PHEV用の充電スタンド ELSEEV



執務室に配置されたAiSEG



テラスの監視カメラ

主な設備

- リビングステーションSクラス
- LEDスポットライト
- AiSEG
- パッケージエアコン
- 監視カメラ
- EV・PHEV用充電スタンドELSEEV